

羽田新運用に関する情報

IFALPA Safety BulletinとALPA Japan追加情報

2020 年 3 月 29 日から羽田空港の運用が大きく変わるのを前に、2 月 1 日から RWY16L／16R の進入方式に関する試験運用が開始される予定です。その目的は主に「進入エリア直下における騒音計測」と「新しい運航方式の運用確認」です。

今般、RWY16L と RWY16R には通常の 3 度 ILS が設定されると同時に、3.45 度の進入角による RNAV 進入方式が設定されます。これは騒音を目的としたもので、一般的な進入方式に比べて角度が 0.45 度大きくなることから、パイロットにかかる負担は大きくなることが予想されます。そこで日本の航空会社では「Tailored Chart」を設定し、負担軽減策を講じる対応を予定です。

一方で、航空局から公示された 3.45 度の RNAV 進入方式を実施することに対する懸念の声が、海外の航空会社から挙がっています。そこで IFALPA は、3.45 度の RNAV 進入方式に関する注意事項などを記した Safety Bulletin 20SAB01「[New Approaches for Haneda](#)」を発行しました。この Bulletin について ALPA Japan HP 内に掲載すると共に、日本語版を作成しましたので合わせてご覧ください。

それに加えて、より具体的な運航情報を記した追加文書を ALPA Japan が作成しました。これについても、同じく ALPA Japan HP に [ALPA Japan Technical Information \(日乗連技術情報\)](#) として掲載しましたので、併せてご覧ください（こちらにも英語版と日本語版があります）。この文書は IATA や IFALPA、そして試験運用が実施される時間帯（1500-1900）に羽田空港を離発着する航空会社の関係者に配布済みです。

以 上